

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 125 号	2011年12月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—11月26日（土）稲作体験のつづきとして

①足踏脱穀機による脱穀 ②ふるいによる粗選別 ③唐ミイによる風選別 ④臼（手回し石臼・ダイガラ臼）による臼挽き ⑤再び唐ミイによる選別を行いました。昭和20年～30年代の農業収穫時の手で行う収穫の後半作業の体験で大変だったことを実感しました。

竹細工は ①竹トンボづくり ②竹笛づくりを臼挽きの後行いました。

参加者は子供会員8名、ジュニア7名、親会員8名、つくる会会員20名の合計43名でした。

—12月04日（日）① 田んぼの稲わらの切り込みと散布が完了しました。

② ハス田のオオフサモ・アシカキ（夜這い草）の駆除、
湿地帯のタテバチドメクサの駆除

※ 湿地帯の散策橋の修復作業は人手が少ないので中止しました。

参加された会員の方、水の中で大変冷たい作業でご苦勞様でした。会員12名と工藤航平・理子兄弟も応援に来て下さいました。

—12月16日（金）・収穫祭準備（テント張り・揉み台・ほか道具設置）

・午後 永山酒造にて洗米2名

—12月17日（土）(1) 収穫祭（餅つき）は、宇部市から西山副市長をはじめ市民環境部長・次長を又 JA 山口宇部農協岩永支店長をお招きし盛大に挙行出来ました。

参加者は親子自然観察隊31名・二俣瀬子ども会父母含め40名・会員27名他二俣瀬小学校大村校長、市民センター長、公民館からは岡野館長・松村事務長他車地婦人部2名総勢107名にて約2俵半強の大餅つきになりました。

(2) 親子自然観察会閉会式を行いこの9ヶ月で自然環境についての学習が終了しました。会員で参加が最も多かった2名が優秀会員であったと表彰され他会員も色々の賞をもらって思い出となりました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者 予定なし

◎行事

—1月01日（日）祝日のため活動なし

—1月21日（土）年始めの打ち合わせ、24年度の大きな行事計画ほか懇親会
エコアップ・維持管理活動（水路・散策橋修復工事）

3. 来訪者の声

今月はありません

4. 会員の声 「餅文化」 (内藤武顕)

餅の語源は糯飯（もちいい・粘りのある飯）あるいは持飯（持ち運びや保存可能な飯）望月の意の望（円い）などの諸説があるが、餅文化は稲作文化とともに東南アジアから伝わってきた。中でも日本では、餅の粘りに対する嗜好が特有の文化をつくりあげてきた。もともと餅は「晴」の日の食べ物で、年中行事の節会の折に雑煮餅、粽、亥の子餅（収穫祭で食べる餅・猪の多産にあやかり万病を払い、子孫繁栄を祈願する・・・）に用いられた。さてビオトープの収穫祭は小春日和のもと大盛況のうちに閉会しました。会員の皆様もご家族の方々も亥の子もちをたっぷり味わわれた事でしょう。辰年のご多幸は保証されました。ちなみに二俣瀬俳句教室の面々も収穫祭を題材にしましたので一部紹介します。

- ・餅つきを終えし広場に白一つ
- ・餅つきに女四代揃いけり
- ・餅もみの子らの眼（まなこ）も丸くなり
- ・幼子や手に余る餅を丸めおり
- ・餅もんで幼子の顔粉（こな）まぶれ
- ・餅つきの音にも齢（よわい）現（あ）れにけり

5. 親子自然観察会

「里山の暮し」

残しておいた稲束は稲作体験の最終作業の収穫として機械（コンバイン脱穀機・自動臼挽機等）をつかわないで、昔ながらの手作業で収穫を体験し、脱穀から精米にするまでの苦労を「里山の暮らし」に取り入れ、勉強して戴きました。

親子自然観察会の子ではなく、全く経験のない時代で育って驚き絶賛の声をあげたのは親の方でした。足踏脱穀機での脱穀は稲わらを巻き取られたり、フルイでの選別は旨く手回しできなかつたり、ダイガラでの臼挽き、精米も全く初めての経験で昔は（昭和10年頃から20年間）大変な苦労で精米にしたものである事が解り、ご飯の一粒でも残すと叱られた意味が良く分かったと大反響を得て、帰宅後に謝辞をメールでたくさんいただきました。

その他 昭和20年～30年代に我々が子ども時代のおもちゃとして手造りした、竹トンボ、竹笛もつくってもらいましたが小刀を触った事が少ないため保護者会員は自分の子どもが、いつ手を切りはしないか？其の方ばかり気になっていたようで、これこそ“虎穴に入らずんば虎児を得ず”の例えを親に指導したもので有ります。（原田 満洲夫 記）

「収穫祭（餅つき）と閉会式」

昨日は曇りで風が吹き雪の降る寒いお天気でしたが、今日は幸いにも風や雪もなく、寒い中でしたが好条件のもと、稲作体験学習の集大成となる“お餅つき”と閉会式を無事、終了致しました。

9:00 今井会長の挨拶の後、西山副市長以下、来賓の見守る中、寒さに負けずお餅つきが始まりました。今年は豊作で搗くおモチも多く会員や子供会の参加者は保護者と一緒になって搗かれたおモチを丸めました。あんモチとしろモチの2種類を上手に丸めていただきましたが、丸める途中おやつ代わりに口の中に入れてゆくおモチもあり、親子で楽しいおモチ作りとなったようです。

餅つきを終えた後、里山親子自然観察会の閉会式を行いました。今年は皆勤者がいませんでしたが、来年はさらに出席率が良くなるようにとの思いをこめ、一年を通して出席率の良い隊員から順に賞品を授与しました。そのあと参加者全員に、収穫し搗き上がったおモチが配られ、解散となりました。（管 哲郎 記）



石ウスでの精米を体験 (里山の暮らし)



竹細工で竹トンボを作りました



収穫祭（餅つき）の開始挨拶



ついた餅を丸めます



ダイガラによる餅つき



ダイガラによる餅つき

6. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（43）リスアカネ（トンボ科・アカネ属） *Sympetrum risi risi* BRTENEF

本州～九州地方に分布し、7月～11月頃まで見られます。低山地や丘陵地の樹林に囲まれた池や沼に生息します。黄色の胸に褐色の太いラインが入り、赤い腹、翅の先端部は褐色になっており、コノシメトンボに似ていますがコノシメトンボは全身が真っ赤ですから、わりと見分けやすい赤トンボです。ビオトープでは須賀河内川沿いで枝先に止まった本種を見られるでしょう。



リスアカネ（♂）



リスアカネ（♀）



連結産卵 前：♂ 後ろ：♀



連結交尾 上：♂ 下：♀



リスアカネ（♂）
顔は黄色、胸は黄に黒条、腹は赤



コノシメトンボ（♂）
顔、胸、腹全体が真っ赤になります。

7. 会よりの連絡事項 （事務局より）

1) 毎年新年に行っていた初集会での今年度の主な行事計画討議は1月21日（第三土曜日）の活動日に東屋にて行います。ちょっとしたお神酒。ぜんざい。甘酒等も準備しております。車でのおこしは乗り合わせて参加下さい。

2) 新入会員のご紹介

落合直己 宇部市錦町9-6-607 （二俣瀬田の小野出身）58歳 元防衛省勤務

8. 編集後記

今年も、年の暮れが迫ってまいりました。土地の問題が解決し、来年以降も無事に活動を継続する見通しが立ち、しかも例年になく豊作になるなど、今年は良い年でした。しかし、課題も多く抱えての越年となります。

最も大きな課題は、会の活性化ではないでしょうか。行事・作業への参加者の増加を図るとともに、会の運営に関する意見を活発にする必要があります。しかし、会員の顔ぶれが固定している現状では、活性化どころか先細りの可能性大です。

人間は歳をとります。私自身も入会以来十数年たちましたが、歳をとるに連れて、作業の翌日の腰の痛さが増し、思考能力は硬直化が進んでいます。皆さんも同様だと思います。体力・知的ともに活性化させるためには、新規会員の入会が不可欠ですが、現状ではこれを見込むことが出来ません。

人間と同様に、ビオトープも歳をとってゆきます。水の落とし口では、水流の浸食により疲労が目立っています。猪による掘り起こしも、あぜ等の寿命を縮めます。観察路も数年おきに補修が必要です。維持管理に、これまで以上の人手を要するでしょう。

本会は、ビオトープの維持・管理を“うべ環境コミュニティー”から委託されておこなっています。さらに、ビオトープの地主さんは宇部市です。これらの組織を利用して、新規会員の募集が出来ないものでしょうか。会の発足時に、“宇部市公報”で呼びかけたように！様々な意見の人が集まり、まとめるのが大変ですが、これも活性化のひとつかもしれません。

（ 前田 歳朗 記 ）